

香港の幼児教育事情と在港日本人がかかえる教育の問題について

—— 第二報 ——

神保 和子

1 序

第一報を基に、乳幼児から小学低学年の児童をもつ在港日本人を対象に、「子育てに関する実態調査」を実施した。

その結果、香港という地域性・特異性が認められるものの海外で生活する日本人の子育て及び教育に関する悩み等の問題が浮き彫りにされてきた。

日本社会では「国際化」ということが声高に言われているが、海外勤務者の増加と質的变化の中でその実態に迫ることも意義深いのではないか。

実際に海外で生活し子育てをする者の一人として、この問題と取り組み日本社会の国際化の現状について考えてみたい。

2 調査の概要

- 1) 調査の方法 質問紙法による
- 2) 調査期間及び対象
 - ・1988年9月～11月
 - ・香港在住の日本人で乳幼児～小学校低学年の児童をもつ親 200名
 - ・回収総数及び回収率

回収総数	199名
回収率	99.5%
- 3) 調査内容
 - 1) 対象児の年齢 2) 親の香港滞在年数
 - 3) 親の香港以外の海外駐在経験の有無
 - 4) 在園児・在校生について
 - ・在園及び在籍する教育機関の種類
 - ・その選択理由
 - 5) 未就園児について
 - ・将来志望する教育機関の種類
 - ・その選択理由
 - 6) 未就園児について
 - ・プレイルーム等の利用状況
 - ・その選択理由
 - 7) お稽古事について
 - ・有無
 - ・種類数及び拘束される日数
 - ・お稽古事の内容
 - 8) 海外における子育てのメリット
 - 9) 海外における子育てのデメリット
 - 10) 在園・在学中の教育機関に対する意見要望
 - 11) 帰国時に入学(園)及び編入する園・小学校に対する要望

3 調査結果

集計上の、或いは結果の比較検討の便宜を図る為に未就園児・就園児・小学低学年児童に分類して報告する。

- 1) 対象児の年齢内訳

未就園児(0～3才)	80名
幼稚園児(2～6才)	86名
小学低学年児童	33名
- 2) 香港滞在年数

1年未満	29%	1～2年	18%
2～3年	14%	3～4年	15%
4～5年	9%	5年以上	9%
- 3) 香港以外での海外駐在経験の有無

有	14%	無	86%
---	-----	---	-----
- 4) 在園児の在籍する教育機関

日本人幼稚園	63%	中文幼稚園	1%
英文幼稚園	33%	その他	3%

* 選択理由

1 言葉の問題	44%
2 日本人としての教育を重視	43%
3 通園の利便性	33%
4 外国文化に触れさせる為	21%
5 友人がいるから	21%
6 その他	3%

在校児童の在籍する教育機関

日本人学校	97%	中文小学校	0%
英文小学校	0%	その他	3%

* 選択理由

1 日本人としての教育を重視	79%
2 言葉の問題	22%
3 友人がいるから	15%
4 通学の利便性	12%
5 外国文化に触れさせる為	3%
- 5) 未就園児の志望する教育機関

日本人幼稚園	56%	中文幼稚園	0%
英文幼稚園	39%	その他	4%

* 選択理由

1 通園の利便性	40%
2 言葉の問題	33%
3 日本人としての教育を重視	24%
4 外国文化に触れさせる為	24%
5 友人がいるから	16%
6 その他	5%

6) 未就園児のプレイルーム利用状況

通っている 38% いない 40%

今後通う予定 20%

*プレイルームの種類

インターナショナル 65% 日本人向け 24%

*選択理由

- 1 同年齢の友達を求めて 63%
- 2 集団に慣れさせる為 59%
- 3 遊び場を求めて 35%
- 4 通園の利便性 20%
- 5 異国の人と触れあう為 15%
- 6 言葉の問題 7%
- 7 その他 4%

7) お稽古事について

*している ・未就園児 13% ・就園児 73%
・小学低児 94%

していない ・未就園児 68% ・就園児 17%
・小学低児 3%

今後する ・未就園児 18% ・就園児 10%
予定 ・小学低児 3%

*種類数

- 1: 未就園 80% ・就園 52% ・小学低 19%
- 2: 未就園 20% ・就園 20% ・小学低 41%
- 3: 就園 14% ・小学低 25%
- 4: 就園 3% ・小学低 1%

*拘束される日数

- 週1: 未就園 80% ・就園 40% ・小学低 16%
- 2: 未就園 20% ・就園 33% ・小学低 31%
- 3: 就園 30% ・小学低 28%
- 4: 就園 3% ・小学低 16%
- 5: 小学低 6%

*内容

- 学習塾: 就園 5% ・小低 13%
- 語学: 未就 5% ・就園 10% ・小低 53%
- ピアノ: 未就 21% ・就園 31% ・小低 69%
- バレエ: 未就 5% ・就園 28% ・小低 22%
- 水泳: 未就 53% ・就園 41% ・小低 28%
- 体操: 未就 13% ・就園 18% ・小低 5%
- 柔剣道: 就園 9% ・小低 19%
- 野球: 小低 13%

8) 海外における子育てのメリット

- 外国語の習得: 未 26% ・園 30% ・小 21%
- 日本ではできない経験: 未 70% ・園 84% ・小 91%
- 国際性が身につく: 未 15% ・園 24% ・小 24%
- 海外の教育情報: 未 5% ・園 5% ・小 3%
- 広い視野をもてる: 未 1% ・園 14% ・小 27%
- 異国の友人を得る: 未 34% ・園 33% ・小 33%
- その他: 夫婦が一致協力できる

日本人としてのアイデンティティーの早期確立

9) 海外における子育てのデメリット

- 言葉の習得: 未 34% ・園 27% ・小 21%
- 日本の社会生活無知: 未 28% ・園 27% ・小 24%
- 遊び場がない: 未 75% ・園 83% ・小 79%
- 健康管理困難: 未 34% ・園 37% ・小 15%
- 教育情報の不足: 未 24% ・園 27% ・小 18%
- 友人が少ない: 未 16% ・園 16% ・小 18%
- 助言者がいない: 未 18% ・園 9% ・小 15%
- 親の不応の影響: 未 1% ・園 5% ・小 1%
- その他: 教育の長期的計画が不可能
家族構成の小ささ ・交友関係の狭さ

- 10) 1 運動場・遊び場・砂場がない
- 2 日本人学校・園の教師の資質 (選択の余地が無い)
- 3 教育の相談機関が無い
- 4 自然と親しむ機会が少ない
- 5 英文幼稚園では園との連絡が少ない、戒いは困難
- 6 海外についてより深い理解ができる教育内容を望む
- 7 早期外国語教育等日本にないメリットは歓迎
- 11) 1 異文化体験を貴重なものとして捉え教師も他の子ども
それを共有できるような配慮
- 2 不応等の問題が生じた場合の対処・家庭との連携
- 3 特別視・偏見なく接してほしい
- 4 海外にいて体験不足の為劣る点について理解ほしい

4 考察

日常生活面では遊び場がない、その為お稽古事の比重が多くなる、体験不足からくる運動面の遅れ等のデメリットがあるが、日本からの情報入手も比較的容易であり在住邦人の数も多く日本人学校・園もあって殆ど国内にいるのと変わらない教育の享受は可能である。

しかし教育産業の進出も教育情報の流入も受験前の小学高学年・中学生対象のものに偏り幼年期に関する情報やケアが少ないことに親の不安が起因している。

一方これから言語を習得する段階の乳幼児において他言語を入れて混乱させたくないという配慮から日本人向け教育機関を選択する親が多い。英文幼稚園の中には教師との英語を媒介とする意志の疎通ができず不応に陥るケースもある。またクラスの中で日本人の子同士が固まって行動をとる現状にある。だが日本人幼稚園・学校共定員が限られており、やむなく英文園に在園しているケースも多い。

香港の幼稚園は第一報で報告したように授業形式の知育偏重カリキュラムであり、長子を英文園に行かせた親に次子には日本人園を望む声が高く、教育制度の相違が問題になっている。

親の姿勢としても日本指向が高く日本人コミュニティの中で満足し異国文化に親しむ機会を閉ざしがちであることも特徴的である。“国際化”がどのようなコンセプトをもつのか曖昧な点を今後更に追求したい。